



布引だより

一人ひとりがキラリ輝く布引の子 ~



全国学力・学習状況調査分析

以前の学校だよりでもお伝えしましたとおり、今年度も6年生で「全国学力・学習状況調査」を行いました。この調査は、結果を地域や学校ごとに分析・検証し、見えてきた課題を今後の生活改善や授業改善に役立てていくものです。調査に出題される問題は、「これから生きていく上で必要とされている力」ということを意識して、課題となったところの改善に努めていきます。前年度の学校評議員会で「課題ばかり載せないで、よかった点も…」というご意見をいただいておりますので、今回はよかった点から紹介します。

よかった点

- ①どの教科も、全国や県の平均に比べて正答率が非常に高かったこと。
- ②記述や選択などの問題形式や、領域（算数なら数と計算、図形、データ活用など）にかかわらず、すべてにおいて正答率が高いこと。
- ③その中でも、特に算数の正答率が高かったこと。
- ④質問紙における回答も、肯定的回答が多かったこと。（後述）

全体的には大変優秀な結果でしたが、その中からあえて弱いところを見つけて、今後の学習に生かしていきます。

国語

（物語は著作権上載せることができません）

間接的な表現から文章の全体を把握する力

○模型店にいた老人が実は未来の自分だったことを、直接的な表現でなく、間接的な表現から読み取る

ア：図工の時間に描いた絵とそっくりな宇宙船が飾られていること。

オ：老人と自分が、タチバナ・ヒロキという同じ名前だということ。

アとオの二つを選択しなければなりません。アの「宇宙船」のことについて選択していなかった子どもが多くいました。間接的な文章表現から、文章の本質を掴むことを苦手としている子どもが多いということです。このことから、中学年では、登場人物の気持ちと情景を結びつけること、高学年では文章の表現の効果に着目させるような学習を大切にしていかなければならないと考えます。

【物語のこれまでのあらすじ】

学校の帰りに、自分と同じ名前のH.I.R.O.K.I.模型店を見つけたぼく。一步その店の入口に近づくと、ドアが音もなく開き、カウンターのすみに座っている老人が、やけになれなく「よお。」と手をあげた。店の中は、宇宙船などの模型で占められていた。

(2)

森田さんは、……部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもそのことが分るところを探しています。「老人」が未来の「ぼく」であると考えられるところとして適切なものを、次の1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

5 【物語の一部】の部オ

4 【物語の一部】の部エ

3 【物語の一部】の部ウ

2 【物語の一部】の部イ

1 【物語の一部】の部ア

○【文章2】のよさを書くこと。
○【文章2】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、運動委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、美化委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思ったからです。南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を知ってほしいという思いをもち、正しく使うことができている学級の様子をア
ろくがして、各学級にしようかいしたそうです。

この話を聞き、五年生の時にさいばい委員会では自分が行った活動をふり返りました。そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを**イ**はんせいしました。

わたしは今年、運動委員になりました。運動が苦手な人も、ウチしたじむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしようかいいたいです。

「問い」に対し、文書2から言葉を取り上げて答えようとしています。条件のひとつ目、「よさ」について書けていない児童の割合が高かったです。授業では、子ども同士、互いの文章を読み合い、書き方の工夫などを認め合って、自分の文章に生かしていくような活動を取り入れていきます。

右は14と21の最小公倍数を求める問題でしたが、最大公約数の「7」と答えた児童が多くいました。「今、なぜ最小公倍数が必要なのか」という問題の意図がわかっていないのだと考えます。



くるみ

85 × 21 の答えが 1470 より必ず大きくなることは、85 × 21 をそのまま計算せずに、85 と 21 をがい数にして計算してもわかります。

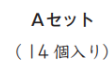
85 × 21 の答えが、1470 より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。

下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 85 を小さくみて 80, 21 を小さくみて 20 として計算します。
- イ 85 を小さくみて 80, 21 を大きくみて 30 として計算します。
- ウ 85 を大きくみて 90, 21 を小さくみて 20 として計算します。
- エ 85 を大きくみて 90, 21 を大きくみて 30 として計算します。

あいりさんたちは、**Aセット**と**Bセット**のカップケーキを同じ個数にそろえたとき、どちらのほうが安くなるのかについて考えています。

(2) まず、あいりさんは、**Aセット**と**Bセット**をそれぞれ何箱買ったとして、考えることにしました。



Bセット
(21個入り)



カップケーキの個数を、 14 と 21 の最小公倍数にそろえて考えます。

|4 と 2| の最小公倍数を書きましょう。

左の問題は、1470より必ず大きくなることを言うために、85も21も小さめに見積もらなければなりません。しかし、85を90と見積もるという「ウ」を選択した子が多くいました。四捨五入をしています。見積もりとは、四捨五入がすべてではなく、目的に合った見積もりの仕方を考えなければなりません。

割合の問題です。果汁20%のジュースを半分に分けても果汁の割合は変わりませんが、約68%の子どもが、「果汁の割合も半分になる」と答えました。

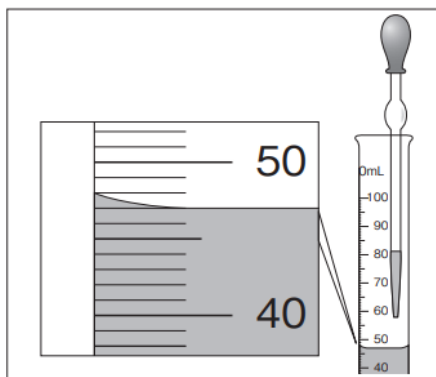
これら算数の問題すべてに言えることですが、今までの算数のように計算ができればよいというわけではないということです。どの問題も、学習したことを具体的な場面どう活用するかが問われています。

学校では、例えば、絵の具を混ぜた時に、同じ割合で混ぜたら同じ色になることを、算数に限らずいろんな活動をととして体感させるなど、意図的に低学年から数量に関わる生活体験を豊かにしていきます。また、単元のまとめでは、習ったことを実際に活用するときのような問題を取り入れていきます。

理科

器具の使い方

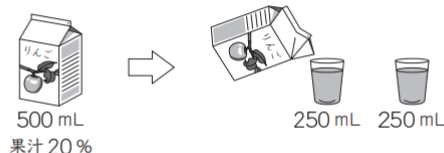
(2) (1)の器具に、次の図のように、50の目盛りよりも下まで水を入れました。50 mLの水をはかりとるためには、このあとスポイトでどれだけの水を入れるとよいですか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 2 mL
- 2 3 mL
- 3 4 mL
- 4 6 mL

右は日光が直進することを理解しているか問う問題です。「的に三角形の光を当てることができるのはだれですか」という問いに、「はなこさん」と答えた子どもが約73%いました。3年生のときの学習内容です。きっと大人なら、直感的に「かつやさん」とわかると思います。それは、経験値の差です。理科の時間に、子どもたちに鏡を渡して「ではさっそく実験しましょう」ではなく、鏡を使ってさんざん遊んだ後、「不思議に思ったことや、確かめたいことはない？」というような教師の問いかけから子どもたち自身でめあてを決め、学習を始めていきます。

(3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、 ㊦

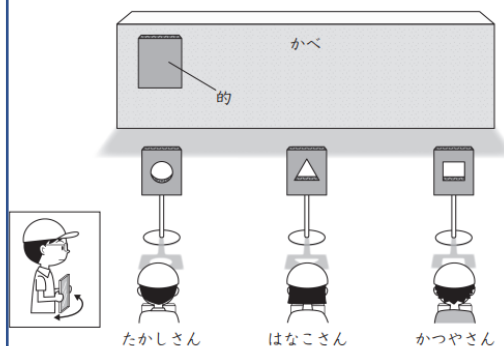
上の㊦にあてはまる文を、下の1から3までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

左はメスシリンダーの使い方の問題です。50 mLにするには後どれだけ水を足せばいいかという問題で、1の2 mLと答えた子どもが22%いました。理科の実験はグループごとに行うことが多いので、メスシリンダーで水溶液を測るとき、代表の児童が測って実験を進めていくことがほとんどですが、こういった基本となる作業は、例えば実験前に水を使って全員が測り取る経験ができるようにしていきます。

3

たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、的にあてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

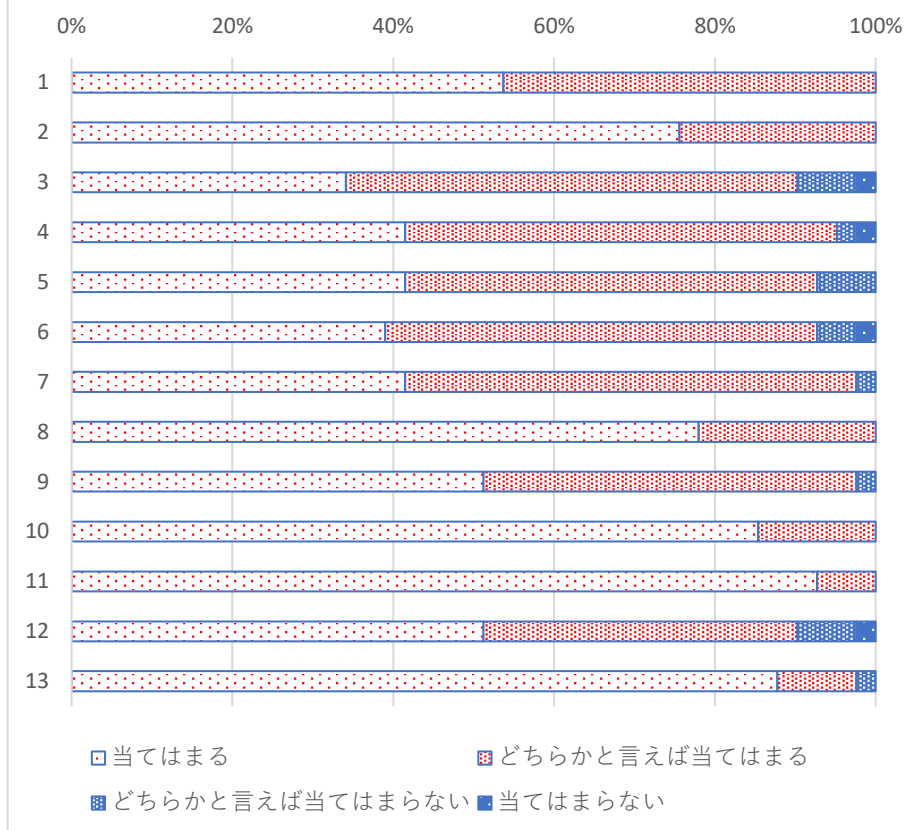
学習状況調査

ほとんどすべての質問項目で肯定的回答が全国や県の平均と比べて圧倒的に高い結果でした。下にあげたものはその一部です。

- 1 「学校に行くのは楽しい」 肯定的回答 100% (以下すべて肯定的回答の割合)
- 2 「友達と協力するのは楽しい」 100%
- 3 「授業で自分で考え、自分から取り組んだ」 90.2%
- 4 「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間だった」 95.2%
- 5 「話し合う活動で、自分の考えを深めたり、広げたりできている」 92.7%
- 6 「学習内容について、分かった点、分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」 92.7%
- 7 「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」 97.6%
- 8 「国語の勉強は大切だと思う」 100%
- 9 「国語の授業内容はよくわかる」 97.5%
- 10 「国語の学習は社会に出たとき役立つと思う」 100%
- 11 「算数の勉強は大切だと思う」 100%
- 12 「算数の授業の内容はよくわかる」 90.2%
- 13 「算数の学習は社会に出たとき役立つと思う」 97.6%
- △ 「将来の夢や希望を持っていますか」 73.2%

この項目は多少、国や県と比べて落ち込んでいました。キャリア教育は力を入れて取り組んでいるところです。来年度は重点項目に挙げ、さらに力を入れていきます。

質問紙の結果



どんな質問の答えが正答率に関わっているか分析するため今年度は、正答率と、質問紙とでクロス集計を行いました。その結果わかったことを以下に挙げます。

- ・1日当たりの読書量は正答率に関わってくる。
- ・「先生は自分の良いところを認めてくれる」はどの教科の正答率にも関係がある。
- ・算数の正答率は、国語や理科に比べ、いろんな質問項目と関係性が高い。

読書は、正答率に大きくかかわっています。「読書は好きですか」という質問に対して、80.5%の児童が肯定的な答えでした。読書が好きな児童も、読書時間も、国や県の平均を大きく上回っていることから、本校の学力の高さの一端は読書にあると言えます。毎朝の10分間読書は今後も続けていきます。